

## ハムサ・カホー 詩聖カビールの詩

おお白鳥よ、昔の話を私にしなさい。

どこの王国から来たのか、おお白鳥よ。どこの岸に降り立ったのか。

おお白鳥よ、どこで休もうとし、どこにおまえの信念を置いたのか。

おお白鳥よ、おまえは甘美の王国から来て、今、世俗的存在の大海の岸に降り立った。

おまえは、マーヤー、幻想の力の中で自分を見失った。この物語の中で、おまえは自分を忘れてしまったのか。

しかし今、おお白鳥よ、夜明けが来た。目を覚まし、私と共に来なさい。

(甘美の王国には)悲しみも疑いもない。(そこには)死への恐れもない。

その王国では、ソーハム(「私はそれである」)の香気で春の森が香り立つ。

そこでは、マインドは世事に巻き込まれることなく、ソーハムの香気以外の喜びを望まない1匹のハチである。

私たちはスシュムナに入り、糸の上のクモのように上へと昇るだろう。

昇れ、この糸を昇れ、おお白鳥よ！これがサッドグルの教えである！

聖人たちの玉座が見つかる所、そこにはチャマラの扇でソーハムのそよ風が吹く。

カビールは言う、私の善良な兄弟たちよ、聴きなさい、この教えは真のグルの王冠である。

### 聖人カビールについて

聖人カビール(1440年～1518年頃)は、悟りを得た神秘主義者で詩人でもあり、インドのヴァーラーナシーで織工として生涯働いた。赤ん坊の時に、カビールはムスリム(イスラム教徒)の夫婦に見つけられて養子として引き取られた。彼の誕生の物語は知られていない。ヒンズー教のグルであるラーマナンダの信奉者となり、ラーマナンダは彼に、神は形を超え、すべての宗教を超えていることを示した。カビールの詩やバジャンは世界中でよく知られている。

英訳 マイトレーヤ・ラリオス  
写真 ジェフリー・マイン  
表紙デザイン ヒラ・タナー、プリティ・カーデナス



© 2019 SYDA Foundation®. 著作権所有。